

ROOTS & INNOVATION

島根の医療を支える人たちの情熱に触れる



島根から、世界へ 医学英語で拓く、 地域とグローバルの架け橋

島根県立安来高校卒業
医学英語教育学講座 教授 岩田 淳

POINT

01

生まれ育った島根で、医学英語教育を通じて地域と世界で活躍できる医療人材の育成に携われることは、私にとって大きな喜びです。島根には、豊かな自然や人と人との温かなつながりがあり、都会では得がたい学びの環境があります。この地で、患者に寄り添う姿勢や、多様な価値観を尊重する心を育みながら、英語による医療コミュニケーション力を磨くことは、将来、地域医療を担ううえでも、国際的に活躍するうえでも、大きな力になると信じています。私自身も、常に世界とつながりをもちながら、これからも皆さんと一緒に学び続けたいと思います。

地元島根への熱い想いを胸に、地域医療を支え、課題解決に挑む医師たち。そして、この地から世界を変える最先端研究に燃える医師・研究者たち。島根大学医学部には、情熱と革新の息吹が満ちています。



外傷学のパラダイムシフトと呼ばれる "damage control surgery"の研究 ～瀕死の重症外傷を救命するための治療戦略～

島根県立横田高校卒業 Acute Care Surgery 講座 教授 渡部 広明

RESEARCH

01

大事故における主な死亡原因は、臓器や大血管からの激しい出血です。外傷の深刻な点は、出血に留まらず、外傷性血液凝固障害が急速に進行し、止血不能を引き起こすことです。このような出血死を減少させる画期的な治療戦略がDamage Control Surgery (DCS)です。従来の外科的アプローチでは救命困難であった大量出血に対し、新たな希望をもたらす治療法であり、外傷学におけるパラダイムシフトとも呼ばれる大変化でした。現在、世界中でDCSの最適な実施方法に関する研究が活発に進められています。当講座においても、これらの研究を進めており、外傷性凝固障害を効果的に制御する手法やより安全で早期止血ができるシステムの研究を行っています。

超高齢社会のフロントランナーへ 島根で学ぶ、老年看護の最前線

島根県立松江北高校卒業
地域・老年看護学講座 教授 原 祥子

POINT

02

島根県は、総人口に占める高齢者人口割合が高いのはご存知の通りです。その島根県で「老年看護学」に関する研究・教育を展開できるのはとても幸せなことだと思っています。元気高齢者はもちろん、病をもっている高齢者も、安心して生活を営むことのできるアプローチやシステム開発のカギがたくさんあるからです。高齢者とかかわりを通して、「若い」を受け入れながら短いかもしれない残された人生を生き抜く高齢者の姿を発見し、心を打たれ、地元島根で学び抜くことの魅力を感じるばかりです。さらに言えば、地元島根で「若い」を学べるのは誇りであり、とっても楽しいのです。



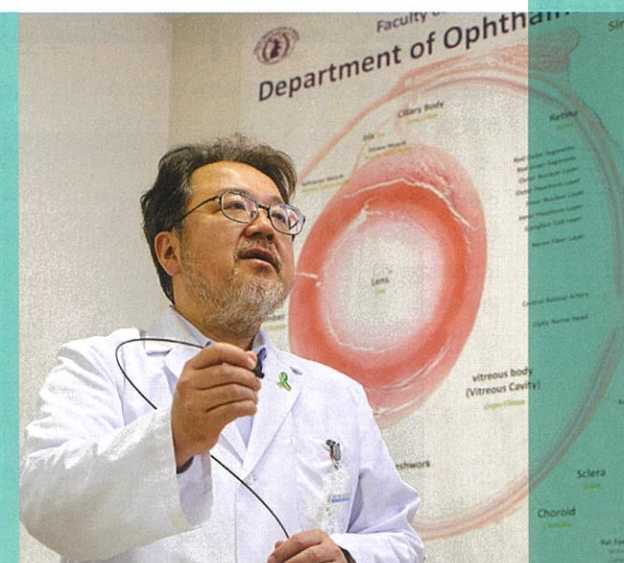
「見えなくなる」を食い止める 最先端の眼科医療

島根県立三刀屋高校卒業
眼科学講座 教授 谷戸 正樹

RESEARCH

02

失明につながる目の病気の多くは年齢とともに発症・進行します。眼科学講座では、包括的な指標を採用して、老化と眼疾患の関連について検討をしています。老年医学的手法による認知機能やフレイルの評価、あるいは、野菜摂取やAGEsを評価するための指尖皮膚センサの導入などです。年間4000件近くの手術を行っており、特に緑内障手術は国内トップクラスの件数と内容です。島根で開発されたマイクロフックトラベクトミーやグリーンレーザーECPといった手術は全国に広がっており、国内外から多くの留学や見学を受け入れています。



島根で医師、教育者、 研究者として生きる意味

島根県立横田高校卒業
整形外科科学講座 教授 内尾 祐司

POINT

03

島根の片田舎で育った私が、曲がりなりにも医師・教育者・研究者としてここまでこれたのは、これまで支援して下さった数多の地域の人々のお陰です。これら人々のご厚情に報いることは私の責務です。身近な人々の健康・福祉のために懸命に生きずして、果たして日本や世界の医学・医療を論ずることができるでしょうか？また、超高齢化社会が顕現化した島根の医療状況は今後、日本・世界全体に波及します。島根で医師・教育者・研究者として生きることは将来の日本・世界の医学・医療の課題を明らかにし克服の道筋を示すことでもあるのです。



3次元で心臓の未来を描く 新たな循環器診療の扉

島根県立松江北高校卒業
内科学講座(内科学第四) 教授 田邊 一明

RESEARCH

03

私は循環器内科の領域で、特に直接心臓の構造や機能を診ることのできる心エコーを専門としています。わが国の死因で心疾患はがんに次いで第2位であり、心疾患の中で最も死亡数が多いのが心不全です。心エコーによって心不全をいち早く診断し、治療、救命に結びつけることが心エコーを用いた循環器診療の醍醐味です。臨床研究では心エコー、特に3次元心エコーで心不全の病態解明や治療への応用について取り組んできました。若い先生たちと心エコーが治療の鍵を握る心臓弁膜症のカテーテル治療や心臓以外の臓器うっ血評価に取り組み、AI診断にも注目しています。

